

氏名 井岡 佳代子 (IOKA Kayoko)

所属 総合経営学部 経営学科

職種 准教授

生年月日 1963年3月5日

## [履 歴]

### [学 歴]

2008年3月 明治大学大学院経営学研究科経営学専攻博士前期課程修了

2015年3月 一橋大学大学院商学研究科経営・マーケティング専攻博士後期課程修了

### [学 位]

2008年3月 修士(経営学) 明治大学

2015年3月 博士(商学) 一橋大学

### [職 歴]

2008年4月 明治大学ビジネスイノベーションセンター研究所 客員研究員  
(現在に至る)

2015年4月 一橋大学大学院商学研究科 特任助教 (2016年3月まで)

2017年4月 南山大学経営学部経営学科 専任講師

2018年9月 名城大学経営学部経営学科 非常勤講師

2021年4月 青森大学総合経営学部 准教授 (現在に至る)

2021年4月 成城大学社会イノベーション学部 非常勤講師 (現在に至る)

### [受 賞]

特記事項なし

### [所属学会]

日本経営史学会・組織学会

### [教育活動] (2023年度)

#### [担当科目]

経営戦略論Ⅰ・Ⅱ, 国際経営論, ベンチャー経営論, 経営学演習 (2年), 専門演習 (3年)

専門演習 (4年), 企業家史 [成城大学 社会イノベーション学部]

#### [卒業研究指導]

専門演習 (4年) 12人

## [ゼミ指導]

経営学演習（2年）16人，専門演習（3年）15人，専門演習（4年）12人を指導。

## [教育指導に関する特記事項]

- ・基礎的学修スキル修得のための授業計画（経営学演習）：
  1. 専門書の読み方や情報検索・収集の仕方，2. レポートの書き方，3. プレゼンテーションの仕方といった，大学生に求められる基礎的学修スキルを修得するための授業を計画・実行している。
- ・アクティブラーニング授業の実践（専門演習）：

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる。具体的には，1. 参考文献の要約，2. 要約した内容についてのグループディスカッション，3. 論文のリバースエンジニアリングとその分析方法の発表（プレゼンテーション），これら3つの項目を実施している。
- ・視聴覚教材の活用（専門科目）

文字情報だけでなく，ビデオ・DVD・写真等の教材を積極的に活用し，受講生の視聴覚に訴えることで講義科目における理解度の促進に努めている。

## [研究活動]

### [研究テーマ]

1. 東北地方におけるSDGsの目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に関する研究。
2. 「地球温暖化対策」，「規模の経済性」，「新しい価値提案」，「地域共生」，これら4つをキーワードとして，東北地方における再生可能エネルギー活用の現状と課題を検討。

## [著書，論文，総説]

### [著書]

1. 『日本企業研究のフロンティア 第9号』，共著（古川一郎，軽部大，ほか11名），2013年3月，一橋大学日本企業研究センター，156 p. 執筆担当部分「第11章 高収益企業への軌跡」(査読付き)，pp. 131-146.
2. 『外資の経営史』，共著（橘川武郎，金花），2016年3月，文眞堂，154 p. 執筆担当部分「第2章 高収益実現とコンフリクト」，pp. 45-80.

### [学術論文（査読付き）]

1. 「戦後日本の石油産業における収益格差の要因分析」，単著，2008年3月，『経営論集』，第55巻第2・3号合併号，明治大学経営学研究所，pp. 127-141.
2. 「石油精製専門企業の高収益実現」，単著，2016年6月，『経営史学』，第51巻第1号，経

営史学会, pp. 29-52.

#### 【学術論文（その他）】

1. 「産業政策の評価に関する一考察」, 単著, 2018年3月, 『南山経営研究』, 第32巻第3号, 南山大学経営学会, pp. 259-282.
2. 「技術進歩の促進と収益力の向上」(南山大学経営学部開設50周年記念号), 単著, 2019年3月, 『南山経営研究』, 第33巻第3号, 南山大学経営学会, pp. 393-406.
3. 「石油業界再編の展開過程」, 単著, 2019年6月, 『南山経営研究』, 第34巻第1号, 南山大学経営学会, pp. 1-21.
4. 「再生可能エネルギー政策の実施に関する一考察」, 単著, 2020年12月, 『南山経営研究』, 第35巻第1・2号合併号, 南山大学経営学会, pp. 95-106.

#### 【予稿集／プロシーディングス】

“Entrepreneurial Leadership and Financial Strategy of Tonen Corporation within the Global Strategy of Exxon and Mobil, c.1970-c.1990.”, 単著, 2012年8月, EBHA 16th Annual Conference Proceeding, European Business History Association, 13p.

#### 【その他著作】

“Entrepreneurial Leadership and Financial Strategy of Tonen Corporation within the Global Strategy of Exxon and Mobil, c.1970-c.1990.”, 単著, 2013年2月, 日本企業研究センター・ワーキングレポート, No.164, 14p.

#### 【学会発表】

1. 「戦後日本の石油企業の経営戦略とマネジメント能力」, 単独, 経営史学会第43回全国大会, 経営史学会, 2007年10月20日, 愛媛大学。
2. 「戦後日本石油企業の財務面における主体的経営者行動」, 単独, 経営史学会第47回全国大会, 経営史学会, 2011年10月15日, 九州大学。
3. “Entrepreneurial Leadership and Financial Strategy of Tonen Corporation within the Global Strategy of Exxon and Mobil, c.1970-c.1990”, 単独, European Business History Association 16th Annual Conference, European Business History Association, 2012年8月29日, 社会科学高等研究院 (フランス・パリ)。
4. 「戦後石油精製専業企業における収益格差の要因分析」, 単独, 経営史学会第50回全国大会, 経営史学会, 2014年9月12日, 文京学院大学。
5. 「戦後日本石油産業における高収益化の実現—東燃を事例として—」, 単独, 南山学会経営系列第2回研究例会, 2018年1月24日, 南山大学。
6. 「コンビナート, 石油, 化学—経営史の視点から」, コメンテーター, パネルセッション

- [報告者：①「日本の石油化学工業の構造的な条件」平井岳哉（獨協大学）②「コンビナートの形成史」稲葉和也（山口大学）③「成熟期の石油化学産業」平野創（成城大学）④「コンビナートの競争力強化—応用経営史の視点から」橘川武郎（東京理科大学)], 経営史学会第55回全国大会, 経営史学会, 2019年10月27日, 慶應義塾大学三田キャンパス。
7. 「産業史研究における組織的なオーラルヒストリーの可能性」, コメンテーター, パネルセッション [報告者：①「問題提起：石油学会の取組みの紹介」橘川武郎（国際大学）②「石油産業とオーラルヒストリー：HS-FCC技術開発の歴史」清水固（元日本石油精製・常務取締役）・角和昌浩（東京大学）③「化学産業とオーラルヒストリー」平野創（成城大学)], 経営史学会第56回全国大会, 経営史学会, 2020年12月6日, 同志社大学（オンライン会場）。

## **[その他の活動]**

### **[公開講座, 講演, セミナー]**

1. 模擬講義「経営学とは」（南山大学・オープンキャンパス, 2017年7月）
2. 模擬授業「マックとモス, どっちが人気?」（名古屋市立山田高等学校, 2018年3月）
3. オープンカレッジ「マックとモス, どっちが人気?」（学校法人平山学園清林館高等学校, 2019年5月）
4. オープンキャンパス「マックとモス, どっちが人気?」（青森大学青森キャンパス 2022年7月、同むつキャンパス 2022年9月）

### **[学内各種委員] (2023年度)**

- ・教務委員会：委員
- ・FDSD委員会：委員

### **[学外各種委員] (2023年度)**

- ・公益社団法人石油学会経営情報部会 石油・エネルギー産業史 WG：委員
- ・公益社団法人自動車技術会：オブザーバー